

「ストップ コロナ差別！」

「コロナ差別」が起きています！

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなか、徳島でも感染された方々やその家族、医療従事者、外国籍の方、県外の方などに対する、誤解や偏見による誹謗中傷や、差別事象が発生しています。感染された方々やその家族、周囲の方への心ない発言や行動、電話やインターネットへの書き込みによる嫌がらせ、アルバイトや入店、登園や登校を断られる、咳をただけで感染者と疑われるなど、感染症にかかわる差別は多く存在し、人々を苦しめています。

誰にでも感染する可能性があります！

感染症対策をしても、家庭や社会において、感染症リスクをゼロにすることはできません。感染症はあなたの身近な場所に潜んでおり、誰にでも感染する可能性があります。

もし、自分や家族、友人や恋人など、身近な人が感染したことで誹謗中傷や差別を受けたとき、あなたはどのように思いますか？日頃から差別的な意識を持ったり、言動をしたりしていないか振り返ってみましょう。

コロナ差別は、見えない「ウイルス」への不安で起きます。不安や恐れは身を守るために必要な感情ですが、過剰に不安などを感じてしまえば、今まで通りの生活を保つことや、感染症を正しく理解することが難しくなります。そして、人を疑う気持ちが生まれ、感染者など感染症にかかわる人々を避けるようになり、ウイルスではなく人を攻撃してしまうのではないのでしょうか。

私たちにできることは？

コロナウイルスを恐れるあまり、人を思いやる気持ちを忘れないでください。恐れるべき対象は感染した「人」ではなく「ウイルス」です。感染者が安心して適切な治療を受けて、普段の生活に戻れることは、新型コロナウイルス感染症の収束につながります。一刻も早い収束のためにも、感染対策を徹底し、今まで以上に差別を許さないという心がけを持って生活しましょう。

今、私たちの日常は、新型コロナウイルスと共存していく「新しい生活様式」へと変わってきました。感染症が広まる中で健康な暮らしを送るためには、正しい情報をもとに行動することが大切です。

感染を防ぐためには、3密を避け、手洗い、マスクの着用、咳エチケット、手指消毒、部屋の換気を徹底することです。

そして、差別をしない自分になるために、

- みんなで「ともに歩む姿勢」を持ちましょう。
- 感染してしまった人には「早く治ってほしい」という気持ちを伝えましょう。
- 治った人には「おかえりなさい」という気持ちで迎えましょう。
- そして、ネットの差別的な発言や不安をあおる発言に同調しないようにしましょう！

忘れないで！思いやりの心 優しさもコロナ差別終息への大事な一歩です